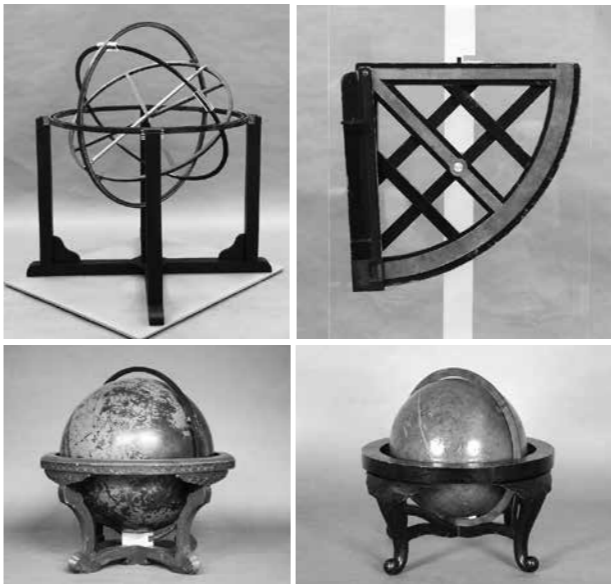


「仙台藩天文学器機」が日本天文遺産に認定されました

3月18日に、本市所蔵の「仙台藩天文学器機」が、宮城県で初めて日本天文遺産に認定されました。日本天文遺産は、歴史的に貴重な天文学・暦学関連の遺産を文化的遺産として次世代に伝え、その普及と活用を図ることを目的に、公益社団法人日本天文学会が認定しているもの。これまで、会津日新館天文台跡やキトラ古墳天井壁画などが認定されました。

「仙台藩天文学器機」は、天体の位置を観測する渾天儀、天体の高度観測に用いる象限儀、天球を模型にして天体の観測値を記録す



▲仙台市天文台で展示している渾天儀（左上）、象限儀（右上）、天球儀・大（左下）、天球儀・小（右下）

る大・小の2つの天球儀の計4点からなり、平成24年には国の重要文化財に指定されています。これらは18、19世紀に仙台藩の天文学者が製作し、使用していたもの。江戸時代の仙台藩では幕府天文方から学問を伝授されて以来、盛んに研究が行われてきました。渾天儀は、実際に観測に使われていたものとして、日本に現存する唯一のものと考えられています。これらの器機は、近世日本の天文学研究の様子を伝える貴重なものであると評価され、今回認定を受けました。

「仙台藩天文学器機」は、仙台市天文台で常設展示しています。

●施設の開館状況についてはお問い合わせください。問い合わせ先等、詳しくは26ページをご覧ください

市政トピックス 街中で出会う市民活動

3月6日・7日に、サンモール一番町商店街や青葉区中央市民センターを会場に、青葉区内にある17の市民センターの活動を紹介する「市民センターミュージアムin

被害による絶滅を免れ、市内各地で保護のため飼育されていました。が、無事にふるさと六郷東部地区に帰ることができました。広場は今後、地域の皆さんが管理主体となり、新たな地域交流の拠点として活用されます。

市政トピックス のりあい・つばめが本格運行開始

4月2日、宮城野区燕沢地区で地域住民の足となる乗り合いタクシー「のりあい・つばめ」の運行が始まりました。市では、平成30年度から地域交通の導入に取り組み団体への支援を行っており、この制度を活用した地域交通の本格運行は初めてとなります。

丘陵地が道が狭く大型バスの運行が困難な燕沢地区では、町内会等を中心に、地域交通の導入を目指してこれまで3回の試験運行を実施。利用実績等を踏まえて時刻表やルートの見直しを重ね、昨年1年間の実証運行を行いました。「のりあい・つばめ」は、ジャンボタクシーで週3回運行し、地区内の29カ所の停留所を巡回します。現在、複数の地区で地域交通の導入に向けた検討が進んでいます。市では今後も、地域の生活を支える移動手段の確保に向けた取り組みを支援していきます。

現在、国勢調査集計作業中のため、掲載をお休みします。



▲震災前に研究用に採取されていたため、絶滅を免れた井土メダカ。市内各地の里親に育てられてきました

あおば」が開催されました。

サンモール一番町商店街には、各市民センターや地域で活動している団体の特色ある事業をまとめたパネルを展示。ホタルの保護活動の取り組みや音楽を通じた地域交流の様子など、さまざまな事業が紹介され、道行く人々が足を止め、興味深く見入ったり、職員に質問したりしていました。また、伊達武将隊や仙台のまちの歴史を研究している専門家などを案内役として、古地図や昔の写真を見ながらまち歩きをするイベントも開催。大町通や芭蕉の辻周辺を歩きながら、地形や道路の名称などに藩政時代の名残があることを学び、身近な地域の歴史について理解を深めていました。

青葉区中央市民センターでは、ダンスや合唱などのステージ発表のほか、まちづくりを考えるトークセッションが行われ、市民センターの多彩な活動の魅力に触れる機会となりました。

市政トピックス スポーツで活躍した個人・団体を表彰

3月13日「仙台市スポーツ賞」の表彰式を開催し、合わせて19組に栄光賞、優秀賞、奨励賞、功労賞を贈呈しました。「仙台市スポーツ賞」は、昨年1年間にアマチ



▲八楯廣志氏



▲佐藤太郎選手

ユアスポーツの分野で優秀な成績を取めた方や、本市のスポーツ振興に貢献された方に贈るものです。栄光賞は、個人の部では、全国高等学校陸上競技大会2020で優勝した菅野航平選手をはじめ、7人が受賞。団体の部では、第73回全国高等学校バスケットボール選手権大会で優勝した仙台大学附属明成高等学校男子バスケットボール部が受賞しました。全国高等学校ウエイトリフティング競技記録会で優勝し、個人の部で栄光賞を受賞した佐藤太郎選手は「パリオリンピックに出場し日本のウエイトリフティング界をけん引していく選手になりたい」と抱負を語り、少年・アマチュア野球チームの指導者として長年にわたり活動し、功労賞を受賞した八楯廣志氏は「この栄誉を励みに多くのスポーツマンを育成できるように皆さんを重ね活動していきたい」と話しました。

3.11 震災文庫を 読む

東日本大震災を語り継ぐため市民図書館に設けた「3・11震災文庫」。所蔵する約1万冊からよりすぐりの本を「紹介します。消えたもの、残るもの、そして、郷土史家 菅野 正道

「巨大津波は生態系をどう変えたか―生きものたちの東日本大震災」 考古学



永橋嘉之／著 永橋嘉之／著 永橋嘉之／著 永橋嘉之／著



「宮城の災害を学ぶ―大津波からの伝言―」 考古学 宮城 考古学会 編集 宮城 考古学会 編集

震災から2カ月になろうとする平成23年5月初め、自転車を若林区の沿岸部へ走らせた。海岸線に沿って緑色の壁となっていた防潮林の木々は流され、多くの建物も失われるなど、津波によって風景は一変していた。仙台市の最も東南に位置する藤塚に行き着くと、かつて神社があった付近は一面の砂で、別世界だった。しかし、じっと目を凝らすと、砂の中に僅かに顔を出している石。夢中で砂を払うと、江戸時代の石碑だった。瞬間、映画「猿の惑星」の有名なラストシーン、自由の女神が砂丘に埋もれていた、あの映像が脳裏でオーバーラップした。少し目線を上げると、塩分が残っているはずの砂地に緑の芽生えが点在し、遠くには少ないながらも菜の花の黄色が。

津波は多くのものを流したが、か弱そうなイトトンボや在来種のメダカが生き残った場所もあった。生き抜いたもの、姿を消したものの、復活したもの……。震災後間もない時期にまとめられた「巨大津波は生態系をどう変えたか」は、大災害に直面した動植物の多様な姿を紹介し、力強さと脆弱さを併せ持つ自然の不思議さを改めて教えてくれる。

災害の痕跡は、時の流れとともに変化するためにその姿が見えにくくなるが、地中にその記憶をとどめることがある。「大地からの伝言」は、発掘調査によって明らかになった過去の災害―地震・津波・洪水・火山噴火―の痕跡を紹介したもの。人類の生活は、常に災害と共にあることを思い起こさせる1冊だ。

●紹介した本は、市民図書館で「見ただけです」 問市民図書館 ☎261・1585